

水土里ネット川尻用水

川尻用水の起源は安政5年（1858年）であると言われており、河北潟へと注いでいる津幡川の河口に土堰を設け、その流水を塞ぎ止めた形で利用していた。いわば川尻用水は津幡川そのもので、受益地区への配水は右図に示すように、数箇所には設けられている取水門や揚水機から川の水を取り入れて配水している。

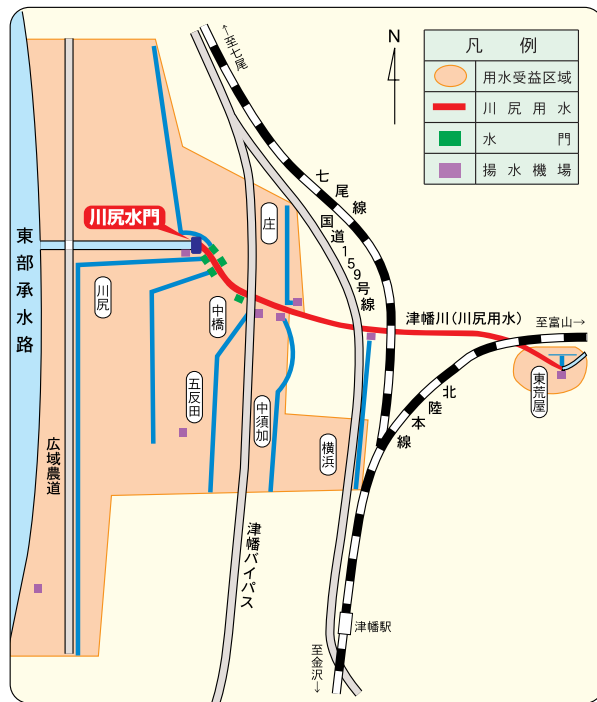
長年にわたる水争いの問題に解決の訪れたのは、昭和4年に行われた県営津幡川沿岸農業水利改良事業により、木造の水門を鉄筋コンクリートに改修し、併せて揚水機場を設置したことであった。昭和30年には、津幡川改修工事に取り組み同37年から新川尻水門の工事が開始、41年に完成した。また受益地の大部分は冠水しやすい状態であった。これは後の昭和40年～45年にかけて施工された県営ほ場整備事業によって解消されたと同時に、ほ場も30a区画の大規模に整備された。昭和40年には津幡川の拡幅と直線化の工事に着工し、44年に完成した。この結果、改修された津幡川は北側を通り、集落を貫流していた旧河川は道路となつてかつての水郷風景も姿を消した。

当土地改良区の受益地は河北平野の中央部を流れる津幡川に沿った津幡町管内の位置で概ね平坦な水田を主とする地域である。近年、宅地化の進展や大型商業施設の進出で農地転用が頻繁に行われ優良農地が激減してきている。土地改良区が管理する主な施設は津幡川の川尻水門と揚水機場・用水路であり、揚水機場・用水路の管理は集落の生産組合長が管

理しており、水門の管理は理事長自ら行っている。

当土地改良区の受益地域内では、平成19年度から開始した農地・水・環境保全向上対策への取組みを契機に理事長が活動組織の代表となり、魚の棲める農村環境の再生を目標に、水田魚道の設置と生きもの調査を実施している。

職員1名の小規模な土地改良区であるが、農地・水・環境保全向上対策を活用し21世紀創造運動を積極的に行っていることから、本年度の同運動のさなえ賞受賞の11の水土里ネットの中に選ばれた。



川尻水門

住所：河北郡津幡町川尻レ7番地1
井上コミュニティープラザ内
設立年月日：昭和27年1月30日
受益面積：243.7ha
理事長：北川 勉
組合員数：425名
職員数：1名
(平成21年10月1日 現在)

編集兼：金沢市古府1丁目197番地
発行 石川県土地改良事業団体連合会
電話 076-249-7181

印刷所：(株)谷印刷

